

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【京都市】

1 実践テーマ	【 III・V 】
2 実施対象者	京都市立西京極西小学校 ① 全学年 249名 ② 4年全クラス 46名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( 特別活動 ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	視覚障害者マラソンについて知るとともに、スポーツに対する興味・関心を深め、スポーツを楽しむ心やスポーツボランティア等のスポーツに関わる意識・態度を育てる。
5 取組内容	① 特別活動（学級活動）  ロンドンパラリンピック 5000m走 銅メダリスト 和田 伸也 氏  【講演】 視覚障害者マラソンについて  実際にパラリンピックで走っている映像や銅メダルを見せていただき、日々の練習のことや思い、子供たちへの願いを話して下さった。銅メダルは視覚障害者に配慮して音が鳴るようになっており、児童もそれを知って驚いていた。



【伴走体験】



はじめに和田氏の伴走者の体験を児童数名が行い、そのあとは、児童がペアになり、アイマスク体験と伴走体験を行った。

【質疑・応答】

和田氏が時計が見えなくても時間がわかって講演しているのを不思議に思った児童が質問すると、自分の腕時計を見せて、針を触って時計を読むことを答えられていた。

② 特別活動（学級活動）

4年生児童が国語科の発展学習として視覚障害者マラソンをされている齊藤浩史氏を招いて、障害のある方のスポーツについての体験談を聞いたり、点字について教わったりした。



6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・視覚障害者の方の体験をもとに障害のある方への理解を深めることができた。</li><li>・障害があっても夢をもちそれに向かう姿から、夢や希望をもつことの大切さを学んだ。</li><li>・困っている人をサポートすることやボランティアの意義を学ぶことができた。</li></ul>
7実践において工夫した点（事業の特色）	<ul style="list-style-type: none"><li>・本校の福祉教育と関連付けて本事業を設定し全校で取り組むこととした。</li><li>・和田氏が普段使っている伴走用バンドや時計などグッズを実際に見たり、触れたりして競技に親しみをもてるようにした。</li><li>・視覚障害者ランナーの伴走を実際に体験することで障害に対する理解を深めること。</li></ul>
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"><li>・多くの児童が体験できるようにと全校での取組としたが、全校児童が体験するには時間が少なかったこと。</li><li>・1年間の計画の中で継続的に取り組むことの講師の確保や時間の確保の難しさ。</li></ul>
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"><li>・2年間取り組んだので、次はまた違った形で取り組みたい。</li></ul>